FUKUDA, K., MATSUI, M., MAEKAWA, M., MORI, K., KATO, K., KANDA, J., ISHIKO, T., Study on the Junior Baseball.

少年野球の研究

体育学会研究部

東京大学

東京大学

東京教育大学

東京学芸大学

福田 邦三

加藤 橘夫 神田 順治

石河 利寛

松井 三雄 前川 峯男

森 清

野球技はスポーツ本来の立場から良かれ、悪かれ、非常に多数の少年達が夢中でやる現況である。特に戦後少年の野球の流行を招来したのは我が国のプロ野球が極めて隆盛になり、その影響が多分にあるが、その風潮に拍車をかけたのは、アメリカの少年野球に対する次の如き見解であると思う。

それはフラナガン神父の「少年の町」の中に自然に野球が少年を善導するのが見られ、事実アメリカの社会学ではスポーツの効用をこのように見ており、青少年を脱線させないための、大切な教育方法としてスポーツが取上げられているのである。事実グランドの附近から不良少年の出る率が少いという報告が出ている。所で日本の場合学校以外の所で少年を善導する機会がスポーツによつて作り出せるであらうか、此処にも研究すべき問題が存在しているようである。

さて今日少年の野球を研究する際二つの類型によつて状況が大きく相異なることを考慮する必要がある。一つは学校単位で組織されたチームであり、今一つは同好の士が集つて作つたクラブチームであつて、前者と後者とはチームを構成している人間関係やそれを取りまく社会的環境が異なり、従て種々の点で異つた影響が与えられると考えられる。

戦後の我が国の少年野球で第二の類型のク

ラブチームが非常に発達した新しい傾向に注目しなくてはならない。これは一に全国に完備した組織網を持つ防犯協会によつて全国大会が舉行されるようになった結果である。

そこでわれわれは先ず、昭和2年の防犯協会の少年野球を対象として第一次の調査を行い、更に学校を単位としたチームによる少年野球の問題に進もうと考えている。少年野球を研究するには、心理学、教育学、社会学、生理学等、あらゆる関連諸科学を動員して研究しなければならない、しかもそれは長い年月をかけて連続して研究してゆく必要もある。今回はその手始めとして、第一次の予備調査を行つた。

§ 調査の対象

東京都の代表を決定する最終予選の試合に出場した七方面の代表チームと、後樂園の優勝大会に出場した16チーム中の7チームに対して行つた。

尚東京の第四方面に選手資格の問題でトラブルが起きその詳細を知るため第四方面の2チームを調査したので、本田代表の本田ワールドを割愛することにした。又遺憾な事に優勝大会参加チームの調査中警視庁少年第二課の指令によつて調査が妨害されたため十分な資料を得ないで終つたことである。

参考のため大会の試合方法を記すことにす

る。

第一次予選 — 第二次予選 — 最終予選 — 優勝大会

- 第一次予選……参加各一警察管轄区域毎に、参加希望の少年を広く参加せしめて大会を開催し、その区域内の代表チームを決定する。
- 第二次以後の予選……第二次以後の各予選大会は、その関係地区の実情により、区域主催方法その他を各関係者間において協議の上適宜決定して実施する。
- 最終予選……札幌市、仙台市、東京特別区、横浜市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、福岡市の十主要都市及び北海道警察区、東北六県警察区、東京警察区、大阪警察区、中国・四国警察区、九州警察区の六警察区より各々代表チームを選出する。
- 優勝大会……最終予選において決定した、十六代表チームを東京に派遣し優勝大会を開催する。

各大会に優勝したチームを以てその大会の代表チームとする。

§ 調査の方法

調査員は東大学生を当てた。調査項目は以下の五項目とし特に第二の項目はクラブチームである点から詳細に調べるように努めた。

先づ東京の七方面の代表を決定する各警察署代表チームの大会前に調査員を集めてその大会を詳細に見て大会期間中一度集合して意見を交換し、試合終了後調査書を作成するようにした。

1. 選手
2. チーム構成に関して
3. ユーザー
4. 後援者
5. 練習について

体力調査は数多くやることは、大会主催者の協力がなくて出来ないのて、東京都代表になつたオール根津クラブについて東大医学部生理学教室の応援を得て実施した。

1. 選手について

チー ム名	年 齢				身 分 (職業)				野 球 歴					家 庭 の 職 業						
	13	14	15	16	高 校 生	中 学 生	勤 人	其 他	6 年 間	5 年 間	4 年 間	3 年 間	2 年 間	公 務 員 (教員 公吏を含む)	会 社 員 (教員 会社員を含む)	農 業	商 業	職 人	工 業	其 他
原宿		2	11	2	13	2				1	12	2		3	5	2	2			3
久松			5	7	12				1	1	6	2	1		3		8			1
伊藤		2	6	6	8	6			8	5	1			2	6	2		2	2	
浅草			5	9	10	3	1			14					3		8		3	
四谷		1	4	6	8	2	1		8	3				6			1	1	1	1
根津	1	4	3	4	5	7		1	8	1	3			5			1	2	3	1
下鴨		2	4	9	9	4					8	4	3	1			2			
仙台			5	3	7						4	3	1							
名古屋		1	10	1	14			1						5	4	2		1	1	
広島		1	10	4	9	2	4		2	2	1			3			3	4	5	
八戸	1	7	5	2	2	13				1	1	8	5		4	4	4		3	
横浜	1	8	6		9	6				9	6			1	6	5		1	2	
夕張																				
計	3	28	74	53	86	45	6	2	27	37	42	19	10	26	31	4	38	5	18	16

2. ティームの構成

野球によつて仲良く 愉快地にグループを構成してやつて居るようである。ただこの調査の

対象になつた少年の如く、技術が相当優秀な者に対してその少年の所屬する学校の各々のティームは、その者に如何なる取扱いをする

であろうか、学校チームの一員に 勿論とり入れたらうし、さりとて時折りその少年が独自でクラブの試合に出場されたのでは学校チームの方は迷惑するに相違ない。この点にも考究すべき問題が存する。

大会管理上の問題の所でもふれているが、ピックアップチームの結成とチーム構成の最初とる形態と思はれる居住地単位の組成のチームとの関連には大に検討する問題があるように考えられる。

チームの構成

チーム名	チーム編成の動機	主将はどうして選ぶか	練習はどのようにするか	親の理解	チーム練習時以外の人々との親しむか	チームに参加して愉快か、不愉快か	第一回戦に参戦してチームは変化するかどうか
原 宿	戦後の青少年の指導と善導の目的で結成チーム結成と同時に父兄による賛助会も発足する	無記名投票による	日曜日以外毎日2時間半位行う	理解あり	出身中学が同じなので皆親しい	愉快である	他のチームから4名を加えている
久 松	選手達の自発的意志により	自然的に	平常週一回位大会前は毎日2時間位	賛 成	同 上		他チームより3名を加えている
伊 藤	小学校での野球グループから成長した	ジャンケンで	毎日大体2時間	良き後援者である	同一小学校出身者故皆親しい	愉快	他チームより3名を加えている
浅 草	戦災後石浜小学校、暇アパートに住居していた時子供達の善導の目的で有志の手によつて作られた	技術的にすぐれているものである	毎日大体2時間	良き理解者である			
四 谷	四谷一中に於ける野球グループの成長	最年長者	土、日の2日大体3～4時間行う	賛 成	皆同窓生なので親しい	愉快	他チームより5名追加している
早稲田	早稲田実業の軟式野球部の変形		毎日4時間位練習	賛 成	親しい	愉快	なし
根 津 (東京都)	少年野球大会参加の爲に結成した	コーチの指名	毎日3時間練習	最初は反対であつたが最近では理解あり	親しくやつている	愉快	なし
下 鴨 (京都市)	下鴨中学野球グループの成長	選手の投票により選ばれる	大会一ヶ月前毎日3時間練習	賛 成	同窓生故親しい		なし
仙 台	小学校時代学友チームの成長	最年長者	土、日練習	別に反対はない	同 上		他チームより3名ピックアップ
名古屋	少年野球大会を目的として結成	監督任命	毎日練習する	協力する	同 上		
廣 島	中廣中学チームが発展したものである	選手全員の選挙	毎日練習する	賛 成	中学単位故皆親しい		
八 戸 (東北)	八戸高校内の野球愛好者達の成長	年 長 者	毎日3時間位行う	始めは反対であつたが今は協力してくれる	お互に近所故親しい		
横 浜	近所の好きなのが集まつて結成	年長者中からコーチ指名	土、日、半日練習する	反対はない	同 上		他チームから5名加わっている
夕 張 (北海道)	夕張中学卒業生で少年野球大会参加を目標に結成	投票で選ぶ	各自練習を行う	賛 成	同 上		

3. コーチの問題

各地方又は東京都の方面の代表チームになる実力を持ったチームであるだけに其処

には熱心なコーチが見られる。クラブチームであるだけに教育者としての経歴を持つ人が1人も居らない。

コ ー チ

チーム名	年齢	職 業	チームの指導年月日	コーチになった動機	報酬	選手との接触	野 球 歴
原 宿	24	造園業	4 年 間	自発的に	無 し	練習時以外ほとんど接触なし	軟式野球8年間
久 松	18	高校生徒	2 "	選手達より依頼され	無 し	練習以外にも常に接触している	高校野球部選手
伊 藤	38	製作所勤務	3 "	町の有志の依頼と半ば自発的に	受けて いる	練習日(土、日)以外は接触しない	中学、大学野球部選手生活を経験した
浅 草	25	機械製造業 販 賣 業	2 "	自発的に	無 し	練習以外近所故常に接触する。生活指導もする	約10年
四 谷	28	化粧品本舗勤務	3 "	勤先専務の助言により	無 し	練習以外接触しない	約5年軟球
早稲田	18	高校生徒	1 "	自発的に	無 し	練習時以外も同じ学校の生徒が多いので接する	高校軟式野球部選手
根 津	20	大学学生	1 "	自発的に	無 し	練習以外に接触しない	5年間
下 鴨	30	国鉄職員	2 "	依頼された	無 し	練習以外に接触しない	勤務先の国鉄チームメンバー
仙 台	19	自動車会社勤務	3 "	グループ中の最年長者であつた爲自然発生的に	無 し		中学時代軟式野球部選手
名古屋	37	高校副校長	1 "	依頼による	無 し	選手の体育的育成に留意	な し
	19	大学学生	1 "	依頼により、学業の余暇に	無 し	練習以外に接触しない	中等学校時代野球選手現在大学選手
廣 島	34	会 社 員	2 "	依頼による	無 し	練習時以外に時々接する	中学校野球選手、社会人チーム選手として活躍
八 戸	19	農協組合員	1 "	自発的に	無 し	練習時以外は接触しない	特になし
横 浜	18	高校生徒	2 "	自発的に	無 し		軟式野球
夕 張	18	無 職	1 "	選手の依頼により	無 し	練習時以外も常に接触している	な し

4. 後 援 者

一つであるが化粧品店が後援して力を入れているチームがあつた。何等弊害と思はれる点は見られないが、此の点にも留意しないと我が国のノンプロ野球の傾向に見られる会社の宣伝に利用するやり方が少年野球にもあらはれないと断言は出来ない。

5. 練習について

これは何れも適当な利用出来る練習場のないことを嘆じていると云えよう。従つて練習

日程も練習計画も十分たらない現況と思はれる。

東京都の代表になつたオール根津クラブが東大の球場を大に利用出来た点を特記しているのが、その為眼を惹く。

代表になつたチームで此の程度であるから本大会参加の全国数下のチームのほとんどが練習場には不自由をしていると考えられる。

少年野球普及の第一に着手すべき点は此の

後 援 者

チム名	団体か個人かその概要	○個人の場合→ 年齢、職業（人 物の概要）	技術面に関 する発言	経済的面の 後援	その町に於け る位置又はそ の町との関係	其 の 他
原 宿	個人及び団体	経済的面はア ボリア貸助会 によりなされ る	会社員	時々コーチ する	無	し な し
久 松	後援者及び後援会なし					
伊 藤	団体	防犯協会のメンバーや 大井署長が経済的面の 援助をあたえる				
浅 草	個人	古物商（66才）		最小限の経 済的援助		青少年の善 導に極めて 積極的であ る
四 谷	会社	化粧品本舗が経済的 面の援助をしている				
早稲田	後援者なし					
根 津	団体	町の後援会で経済的 面を後援してくれる （特定の個人や 会社でなく）				
下 鴨	団体	京都市の防犯協会が後 援してくれる				
仙 台	団体	町の後援会が経済的 な後援をしている				
名古屋	個人	市議員、PTA 会長、区防犯協 会副会長		かなりの面 につき後援 してくれる	その町の有力 者	
廣 島	団体	中学のPTAが後援会 となっている				
八 戸	個人	県議員		経済面全般 をしてくれ る	その町の有 力者	
横 浜	後援者なし					
夕 張	後援者なし					

練習について

	（週にどれ位やるか）	（練習をやる場所）
原 宿	毎日（日曜を除く）	
久 松	週に2～3回	浜町グラウンド皇居前広場
伊 藤	毎日やる	伊藤中
浅 草	毎日やる	
四 谷	土、日にやる	新宿御苑慶應病院
早稲田	毎日やる	早実校庭
根 津	毎日午後5時～8時	東大球場
下 鴨	大会前は毎日3時間やる	下鴨中校庭
仙 台	土は平日、日曜、休日（一日やる）	
名古屋	毎日午後3時から夕暮までやる	校庭のすみでやる（中高商）
廣 島	毎日6時間やる	中学校々庭
八 戸	毎日午後4時～7時	小学校でガラスをこわしながらやる グラウンドが欲しい
横 浜	土、日に平日宛やるのみ	
夕 張	練習は各自に独自にやるのみ	グラウンド不足

辺ではなかろうか。

6. 用 具

これはほとんどチーム員各自が主なものを負担している。

用具について

○ 全部自分持ちのチーム

久松 早稲田 下鴨 仙 台
名古屋 廣 島 八 戸 夕 張

○ 大部分後援会によつてまかなわれるチーム

金根津

○ 消耗品のみ後援会により援助チーム

原 宿 伊 藤 浅 草 四 谷

○ 大会参加等について特別の寄附を
もらつたチーム

四 谷 (四谷署より
キャップ、
ストッキング)
下 鴨 (市より
ユニフォーム)
名古屋 (市より
ユニフォーム)
仙 台 (市より
ユニフォーム)
廣 島 (市より
ユニフォーム)

○ 其の他

廣島——用具は中学校のものを借用

横浜——各自持よりの会費で一揃道具を揃えた

7. 大會管理上の問題

野球によつて少年に正しいフェアプレーの精神と良い市民精神とを植えつける為に、大なる成果をアメリカの少年野球があげているのは、第一にアメリカ人の全てが野球に深い認識を持つていること及び第二にアメリカの少年野球組織が整備されていることの為である。

ところで我が国のスポーツ界の現況よりみて、1人でも多くの少年に野球をやらせるといふことと全国の強豪チームを集めて盛大な大会をやるといふことをうまくマッチさせることは、現段階ではなかなかむずかしいことである。この成果をあげようとする苦心の結果であろう。大会規定の中に次の如き条文がある「第一次予選の選出代表チームに限り5名以内の変更補充は支障ないが、第二次予選大会出場後は認められない」。この規定に起因して選手資格に関して次の如き問題が惹起した。

第四方面優勝チーム決定までの経過

第四方面の優勝チームと目されていた全戸塚(戸塚)は、1回戦にブルースター(荻津)

親が野球に対して理解を持つていと全員が解答しているだけに、高価なグラブ、スパイクシューズ、ユニフォーム等親が奮発して居るものと思はれる。

を破つたものの、2回戦対オリオンズ(杉並)に破れ去つて、全国制覇の野望も潰えて、結局Aブロックに於けるオリオンズ(杉並)も全早稲田(早稲田)の勝者も、Bブロックに於ける勝者ジャイアンツ(四谷)との間に、第四方面の覇権が争はれることとなつた。

23日(7月)神宮球場に於いて、Aブロックのオリオンズ(杉並)対全早稲田(早稲田)の間に試合が行はれたが、オリオンズ(杉並)の勝利に終り、Bブロックの勝者ジャイアンツ(四谷)との決勝戦が行はれることになつた。

ところが、オリオンズ(杉並)チームの投手は、規約違反の選手であるとの抗議が行はれ、種々調査した結果、それが認められてオリオンズ(杉並)は失格し、決勝戦が行はれずして、四谷ジャイアンツの不戦勝をもつて第四方面の優勝チームとなつたものである。

23日に四谷ジャイアンツの優勝が決つたのではあるが、25日に至り、時尾クラブ(淀橋)より、優勝チーム四谷ジャイアンツに規約違反の選手ありとの抗議があつた。これについても、種々調査した結果、その事実が認め

られ、四谷ジャイアンツは失格となり、こゝに第四方面の優勝チームは空席となつた。そこで翌26日、高井戸に於て、全早稻田（早稻田）、和泉ホークス（高井戸）、時尾クラブ（淀橋）の三チームの間で、改めて優勝決定戦が行はれ、全早稻田が他の二チームを破つて、優勝と決した。

オリオンズ（杉並）の規約違反について。オリオンズ（杉並）の投手は、大会規定に反して、18才の少年であり、更に近所の会社の軟式野球チームの主戦投手であるから、当然オリオンズは失格さるべきであると云うのが、抗議の内容であり、この抗議がなされた時、可成り長い間もめたが、抗議の事実が認められたので、オリオンズは失格し、四谷ジャイアンツが不戦勝で第四方面の覇権を握ることとなつた。

これに対する大会役員の意見

常識的なことしか聞き得ず、このような事態のはからずも起つたことは、第四方面の恥であるとして、多くを語らなかつた。

これに対する観客の意見

22, 23 両日とも通つた熱心な観客の意見によると、これはどうも、全戸塚（前年度の優勝チーム）が敗けたので、その腹いせにオリオンズの投手の規約違反を指摘したのであらうと思う（これについては四谷ジャイアンツ監督中原氏も同意見であつた）。そして若しオリオンズが早稻田に敗けたならば、全戸塚も抗議しなかつたらうに、オリオンズが勝つてしまつたばかりに、こんな始末になつたのでしようと語つていた。

それに今日（23日）は、年令相応の小柄な投手が投げて居ますが、昨日（22日）は何れのチームも、結構大きな、良い投手が投げていたようでしたとも語つた。

四谷ジャイアンツの規約違反について

神宮球場に於ける四谷ジャイアンツと時尾

クラブ（淀橋）この試合に於いて、四谷ジャイアンツの高瀬君が、6回7回のニイニングに出場して、最終7回目に於ける、二死満塁の時尾クラブの好機を阻み、それによつて決勝戦に臨むことが出来たのであるが、この高瀬君に關する規約違反なのである。

時尾クラブは、四谷ジャイアンツに敗れたのを残念に思つてか、全戸塚とオリオンズの場合と同じように、四谷ジャイアンツのメンバーを調べ、高瀬君が、規定年令より40日間多いことを発見し、これを申し出たのである。そこで四谷ジャイアンツは早速、高瀬君に質した所、正しくそうなのであり、抗議を入れて、四谷ジャイアンツの失格と定まつた。所が警察に登録されたメンバーには、高瀬君の名が載つていないので、四谷ジャイアンツの監督中原氏に質した所、次の様な事が明らかになつた。

即ち高瀬君は四谷ジャイアンツのメンバーではなくて、新宿インディアンスのメンバーの一員であつたが、新宿インディアンスより、高瀬君は昨年も出場したし、今年もまだ出場出来るからとの推薦を受けたので、倉本武次君（余り練習に來なかつた）の登録を抹消して高瀬君の登録をなしたと云うのであり、四谷ジャイアンツだけだつたら、規約違反はなかつたものである。そして中原監督は、來年は全員の戸籍抄本を取つて、このようなことのないようにすると語つて、話を結んだ。

これに対する四谷ジャイアンツの選手の気持は、こうなつた以上、仕方がないから、來年の捲土重來を期して、練習に励まうとして居るといつた態であつた。

前述の経過のような点よりチーム構成の仕方に関して研究すべき問題が含まれていることに留意せねばなるまい。本大会の特徴として役員の多いということ、従つて祝辞式辞の数多いということも一考を要する点である。

それと共に役員諸氏のスポーツに対する認

識が問題である。ある警察署管内の優勝戦を見ての感想を1例にあげよう。

ある東京都の警察管下の少年野球大会の閉会式の際、防犯協会長の閉会の辞の中に野球技の精華は「ファイン・プレーにあり」と一再ならずくり返した。

「ファイン・プレー」を演じた後はエラーをすることが多い。得意になると心にスキが出来るという自制自戒を要する人間の欠点があるはれるもので、ファイン・プレーを願う気持は望ましいものではないと思う。

何故少年達にフェア・プレーを先づ第一に教えないのかと残念に思つた。此の辺にも今日の我が国の為政者のスポーツに対する関心の貧困さがみられる。

東京都代表「オール根津」チーム の体力調査

「オール根津」チームが試合前3日間の練習を、本郷東大球場で行つたので、練習の最後の日、即ち試合の前日午後1時より3時迄東大生理学教室に於て体力検査を施行した。

参加者は8名で他の者は都合が悪く参加しなかつた。参加者の年令は満14年11月より16年7月に亘り、平均年令は15年11月であつた。

検査者は東京大学生理学教室員及びお茶の水女子大学体育生理学教員で、検査項目を大別すると(A)問診、(B)体格検査、(C)機能検査に分けられる。

(A) 問診——發育歴、既応病歴、球歴について調査した。

(1) 發育歴——小学校入学当時の身長は大部分の者(8名中5名)が中位で、2名が大、1名が小であつた。これが中学入学当時になると、5名が大、3名が中となり、小さい者は1名も居ない。このことは小学校在学中の發育が良好であつたことを示し、恐らく思春期の發育が一般の者より早期に起つた者が多いの

ではなかろうか。平均年令が満15才10ヶ月では發育が完成して居ない時期に当るので、この時期の年令層より野球の選手を選ぶとすれば、思春期の發育の早期に経過する者が選ばれる可能性が多い試である。

(2) 既応病歴——ツベルクリン反応の陰性者が3名、陽性者が5名であつた。陽性者5名の中1名が1年以前に陽転して居る。又3年前に左乾性肋膜炎を経過した者が1名、1年前に肺結核に罹つた者が1名存在した。根津チーム全体として試合前にツベルクリン反応、血液沈降速度、X線検査等の医学的検査は行つて居ない。

(3) 球歴——野球を始めた時期は大部分が小学校時代で、中学時代に始めた者は僅か2名にすぎない。又野球の選手となつた時期も過半数の5名が小学校上級学年である。

(B) 体格検査

(1) 身長——平均 163.1cm (154.9~170.0)

(2) 体重——平均 52.1kg (49.3~55.9)

(3) 胸囲——平均 80.0cm (75.9~84.3)

(4) 指極——平均 162.8cm (153.2~168.9)

チームの大部分が学生であるので、身長、体重、胸囲に就ては吉田章信氏著「学徒体力標準表」と比較して見た。この著書のデータは戦前のものであるが、現在の学生の体力が大體戦前に復して居るので比較するのに適当と考えられる。吉田氏は評価を甚大、稍々大、常、稍々小、甚小の5通に区分して居る。根津チームに就ては

身長 稍々大 2名 常 6名

身長別体重 全員 常

身長別胸囲 全員 常

これでわかる様にこのチームは全員普通の發育を示し、特に体格が強大という者は1人も居ない。又指極に就いても別に變つた点は認められない。

(C) 機能検査——呼吸機能として肺活量、筋力として背筋力及び握力、血圧調整機

能として体位血圧反射、細小運動様式における敏捷性に関連し急速反復運動能力をみるためにタッピング検査を行った。

(1) 肺活量——平均 3694cc (3010~4080)

(2) 背筋力——平均 125kg (90~150)

(3) 握力——平均右手 40kg (45~27)

左手 38kg (43~27)

肺活量及び背筋力を前記吉田氏の資料と比較するに、

肺活量 少々大1, 常7,

背筋力 常7, 少々小1 となる。

握力に就いては「体力科学」の船川氏の記述より引用すると、15~16才男子握力左右和は76.5kg となり矢張り根津チームの選手が特に握力が強いとは思えない。

(4) 体位血圧反射——検査方法は被験者を臥位より坐位にさせた時の血圧の変化を時間を追って測定する方法で、多くの者は坐位にした時血圧が約5~10ミリ下り、2, 3分の中に旧に復するものである。人によつては長い間旧に復しなかつたり、又臥位より高い値をとつたりする。今回の測定に当つては6名の者に此の検査を施行したが、特に回復の良い者はみられなかつた。

(5) タッピング検査——キを叩いた時に電気回路が通じてカイモグラフ上に煤紙描記する様に装置した。描記された曲線から叩打速度及び叩打速度の均一性を検べた。測定は5名に就いて行い、15秒間の叩打数及び不規則度は同年令の健康人と比べて特にすぐれて居るとは思えなかつた。

総 括

今回の測定は根津チームの自発的参加によ

つて行われたので、チームの全員を調査することが出来なかつた。又練習前後とか試合の経過による変化とかの逐時的経過を追求することも出来なかつた。したがつて今回の測定の結果からそれらの点を含んだ充分の結論を出す訳には行かない。此の種の測定には主催者側の理解と援助とが必要であるが、「少年野球」に於てはこれがみられなかつたのは遺憾であり、われわれが兎に角測定を施行しえのは、東大球場を貸与した点に負う所が多い。労研大島博士等は試合場たる後楽園に赴き現地測定を企てたが、現場管理者の協力が得られず目的を達しなかつた。この様な状態では将来充分の調査成果を期待することが出来ない。

全国大会を8月の炎天下で行うことは、未だ發育途上にある少年にとつて一般にも必しも適當とは云えない。又1年以内にツベルクリンが陽転した者や、結核性疾患治癒後間もない者が居ることは甚だ危険である。主催者及びチーム首脳部が此の点一層健康管理に努力を払つて、本大会を少年の体育上有益ならしめる様にしなければならない。

体格、筋力、呼吸機能、運動速度等施行した数種の検査に於ても、同年令の他の者と変らない数値を示し、血圧反射に於ても日米対抗水上競技出場選手に於て、測定者の1人猪飼が見た様な特に調整機能のすぐれた者は見当らなかつた。この点から云つて、根津チームは粒のよく揃つたチームで、1人の傑出したプレーヤーによつて支えられたチームではないものと思われる。したがつてこの選手の中から将来著名の野球選手が表れるとは期待されない。